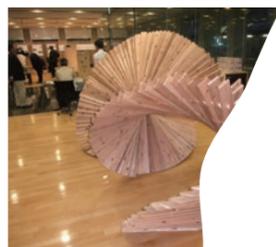


十年間の活動記録
木愛の会
 木造都市研究会



2007-2017



E-mail : kiainokai@gmail.com
 URL : <http://www.kiainokai.net/index2.html>
 Facebook : <https://www.facebook.com/kiainokai>

執筆・編集：
 木愛の会 世話人
 (2017年度)

- 会長 高松 伸
- 副会長 加納 隆・・・p.1
- 代表 太幡 英亮・・・p.1,4,6, 編集
- 副代表 酒井 賀津子
- 副代表 東海林 修・・・p.3
- 副代表 福井 徹也・・・p.5
- 事務局長 石田 富男・・・p.6
- 会計 佐藤 栄次
- 会計監査 肥田 都吉
- 田中 英彦・・・p.2
- 佐々木 啓芳
- 大影 佳史
- 小林 雅和
- 古田 誠
- 石山 央樹
- 清水 秀丸

発行：2017年9月23日

木造都市研究会「木愛の会」は、2006年末に始動し、今年でほぼ十年間、活動を継続してきました。会が誕生した二十一世紀の初頭には、地球温暖化などの環境問題が指摘され、温室効果ガスの削減目標を定めた京都議定書が発効されるなど、「地球環境」に対する意識が高まっていました。同時に、二十世紀型の社会システムや建築・都市システムにも疑問が生じ、次なる時代の建築・都市を構成する素材として「木」が再び注目されつつありました。そんな中、加納隆副会長が2004年以降取り組む、医療福祉タウン研究会（現日本メディアカルオアシス研究学会）の講師として、京都大学高松伸教授をお呼びしたのが縁となり、木愛の会が設立されました。

「木愛の会」の名付け親は高松副会長で、「（コンクリートでも鉄でもガラスでもなく）これからは「木」の時代が始まる」という言葉のもとに、東海林修氏が中心となりメンバーを集め、田中英彦氏が世話人代表に就任しました。



2006年設立から2009年まで

2006年12月16日、栄ガスビル5Fホールにて、約120名出席で設立総会を開催しました。記念講演は中村義明氏（中村外二工務店代表）による木造建築物の現代的意義を問うものでした。2007年2月24日の、第1回セミナー、京都「中村外二工務店の仕事を見る」を皮切りに当年度は4回の見学セミナーを開き、多数の参加者により活動に拍子がかかりました。

2008年4月の第5回セミナーでは、奈良県上笠神住宅（木造3階建て）などの見学会、7月の第6回では、高松伸会長の設計による、丸美産業本社（木造ハイブリッドビル5階建て）の完成見学会を開催。さらに、学生対象の設計競技「あたらしい木の建築」を魅了する木造都市へ」を実施しました。9月の第1回学生コンペ入賞者表彰式の後、高松伸会長を囲んで座談会を開催。このコンペは木愛の会が県外の学生にも認知される足掛かりとなりました。12月の2周年記念総会では、河井敏明氏、平沼孝啓氏による記念シンポジウムを開催し、オフィスビルの木質化、木造ブロックの組積構造をはじめ、新しい都市木造の流れを学ぶ貴重な機会になりました。

2009年3月には、吹上ホールにて開かれた「ハウジング&リフォームあいち」（入場者約3万人）に、学生コンペ入賞作品等、パネル15枚を展示しました。同4月、第7回セミナーでは、京都「河井敏明氏の仕事を見る」として、外壁が無垢の杉で覆われた四条木質ビルを見学し、5月の第8回セミナー「新しい木構法と木質耐火構造の現状を知る」で、大断面の無垢材を用いたTF構法に注目するなど、木造都市に向けた先進事例を紹介し、多くの参加者とともに学びました。同年8月には、高知の建築視察ツアーを開催。参加した多くの会員とともに、牧野記念館、坂本竜馬記念館、高知駅（木造上屋）、を視察しました。10月には、第9回セミナーとして、腰原幹雄氏講演会、3周年記念総会では横内敏人氏の講演会を開催。木造建築技術の変遷や、建築基準法改正を受けて可能になった現代の大規模木造など、木の建築の可能性を議論しました。

設立から3年の間に、10回を数える講演会を開催し、当時黎明期と言えた都市の現代木造建築の先進事例を広く紹介するとともに、知見を深める機会となりました。また、会員とともに多くの見学会や、海外や県外への視察旅行を開催するなど、会員の交流も活発化し、会員も増えて行きました。



木愛の会 趣意書

①循環型社会の構築のために木材を使いましょう

地球環境のバランス、（大気と、陸、海、動植物、人間の暮らし）を保つには、循環型社会の構築が不可欠です。

CO₂のオゾン層破壊により、地球環境のバランスが崩れつつあります。日本は国土の1割が森林ですが、その果たす役割に、二酸化炭素の蓄積があります。木材は伐採され、製材し建築用材となっても、CO₂はそのままストックされます。木材が、建築部材に製造・加工される時の消費エネルギーは少なく、発生するCO₂は他のアルミや、鉄と比較して格段に少なく、地球環境にやさしい材料といえます。

木材を伐採し必ず植林する、を繰り返していけば、枯木の心配のない資源なのです。循環社会の主役は木材と言えるのですが、しかしながら 国産の木材使用量はわずか1割しかありません。輸入材に頼らなくとも戦後の造林材が育っています。

木材を使い植林することで森林を保全し、生態系の循環を促します。循環型社会構築のため、木の建築の需要と供給を促進させましょう。

②大海原の可能性の有る木で、新しい建築を考えましょう

産業革命以後、鉄、ガラス、セメントで作られる建築は、研究され尽くされた感があります。しかしながら、木の建築の可能性は大海原で、未知数と言えます。

近年、木造共同住宅3階建てを初め、大スパンの大断面木造建築、5階建てオフィス建築が建てられています。耐火建築物としての認定はまだ、不十分ですが、近い将来道が開け、様々な用途の木造建築が開発されることを確信します。

新しい建築は、古い素材を研究し、鍛えることで生まれます。伝統的構法に先人の木への造詣を学び、伝承すると共に、木の特性を学び新しい木の建築を考えましょう。

③「木造都市」を提案しましょう

2003年の「美しい国づくり政策大綱」に続き、2004年に「景観緑三法」が成立し、地球環境への関心の高まり、高齢社会での健康と生きがいなど、国民の価値観の多様性とともに、美しく安全で健康な街とは何かが問われています。

すでに、住宅は言うに及ばず、幼稚園、学校、病院、高齢者施設、ホテルなどの公共性の高い建築で木造や、木がふんだんに使われています。木の構造での街づくりがどうすれば可能か、木材の利用促進にかかる制度や助成、建築基準法の改正を踏まえて、学び、提案しましょう。

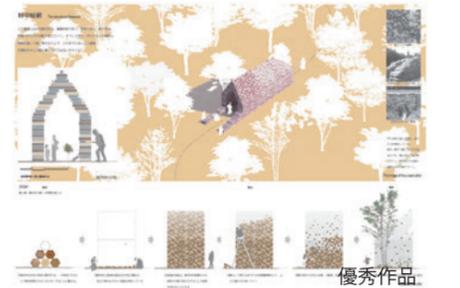
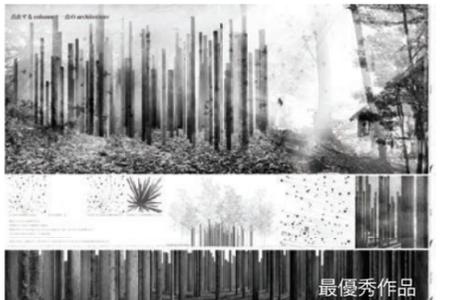
④建築や関連業態を志す者に、近未来の木の建築・都市を学べる場を提供しましょう

地域の人々の暮らしや、地域の材料とともにある「営み」としての木造建築を実践し続けてきた建築家・専門家たちが、今改めて木の建築の価値を発見し、木の建築・都市を学べる場や機会を設けることは、次世代への責務でもあります。木に関する良さを学び、伝統の上に自発的に、木の建築を発展させ、地域に暮らす人々や国内外に向けて発信しましょう。

会の4年目にあたる2010年の最大のイベントが「ティンバライズ建築展—都市木造のフロンティア in なごや」です。東京大学の腰原幹雄氏を中心とするNPO法人チームティンバライズは「木」を新しい材料として捉え、木造建築の新しい可能性を探る事を会の活動方針としています。このティンバライズと木愛の会合同の展覧会を10月の1週間、丸美産業本社ビルにて開催しました。初日の、名古屋市長の河村たかし氏と高松伸会長、そして腰原氏とのトークセッションでは、大勢の方々との「都市木造」の議論が展開されました。また、4周年総会では、谷口元副会長のコーディネートで名城大学の生田京子氏、同大影佳史氏、太幡英亮氏ら地域の大学における若手が新しい木造建築の提案を行うとともに、会のメンバーに加わりました。

東日本大震災のあった2011年は会の5年目の活動に入り、6月には「木造公共建築が名古屋を変える」と題して、木造の学校づくりを進める名古屋市立大の鈴木賢一氏の講演とともに、再び市長を交えたトークセッションを開催。また、好評だった第1回コンペを受けて、第2回目のコンペの準備に入りました。そして6年目の2012年3月締切での第2回学生コンペの課題は「間伐材丸太による小建築」でした。既に様々に語り尽くされていた間伐材が、学生の柔軟なアイデアで再解釈され、木造都市への提案が為されました。今回の目玉は入賞者の中から1点を実際に施工する事を前提にした点で、多くの力作の中、優秀賞の「Wooden Crack Planter」を製作し、名古屋市内外に展示しました。

2011年の5周年総会では、名古屋大学の古川忠稔氏から国産小径木を活用した「木造駐輪場」が紹介された。これは木愛の会メンバーも共同で提案したものである。2012年には更に、間伐材をテーマにしたコンペとともに、建築とランドスケープにおける小径木活用の可能性が追求されていった。

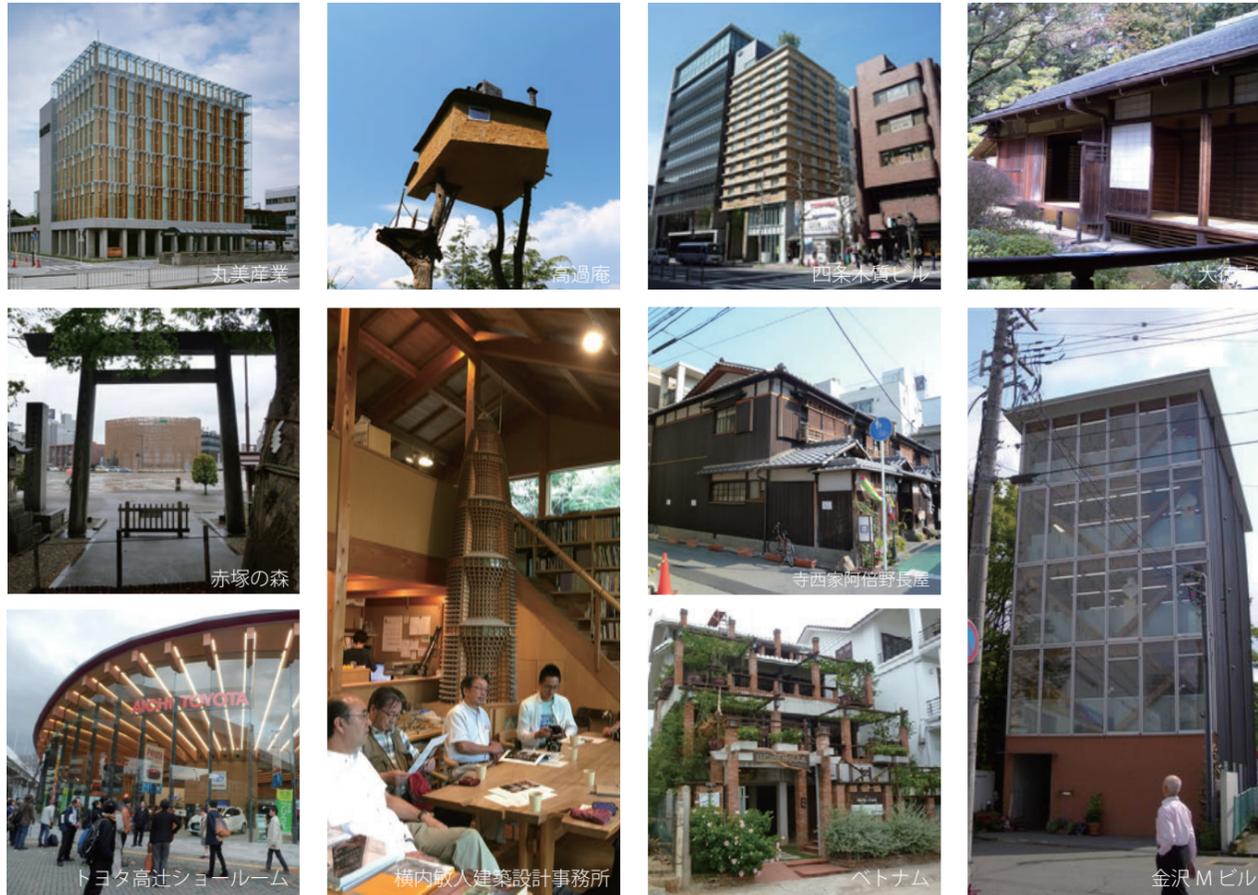


竹をはじめとした自然素材の建築で世界的に著名なベトナム建築家、ヴォ・チヨン・ギア氏の作品視察も契機になり、2013年からの3年間は、竹建築の実践を行いました。杉や檜の人工林の問題とともに、放置竹林も全国各地で問題となつていきます。2013年には、ながくてアートフェスティバル「どこでもアート」部門参加企画として、長久手市内の竹林を借り「竹林居」を製作しました。川沿いの放置竹林の竹を伐採して高床式の竹ステージをつくり、周囲の竹の「しなり」を活かした「一夜の建築」をつくり出しました（実際には三日間開催）。このステージでは若手音楽家の演奏会を開催。対岸の土手が客席となりました。

2014年にも、ながくてアートフェスティバル参加企画として、「竹林居2」を安昌寺境内に設置。竹の床組とゆるい弧を描く屋根の下で、和太鼓や舞いのパフォーマンス、クラシックのコンサートを開催しました。2015年には、都市緑化あいちフェアの長久手市自治体花壇（花しずく）において、「竹林居3」を製作しました。木のフレームに組み合わされた竹の床と屋根が、簾のように光と風を透過させる、涼しげな東屋となりました。

この間にも、陶器浩一氏（滋賀県立大学）、石山央樹氏、福井徹也氏（あいちの木で家をつくる会）、堀内征弘氏（木質構造研究会）、嶺木昌行氏（丸美産業会長）らを講師とした勉強会が開催され、9周年総会ではスイスの最新木造建築事例の紹介とともに「日本・オーストリアの中高層木質構造の耐火法規比較」と題した谷篤子氏（ウィーン工科大学）の講演を開催。国際的同行を学ぶとともに、次年度からの「木の連歌」企画へと引き継がれました。





- 京都「中村外二工務店の仕事をみる」大徳寺ほか (2007.2.24)
- 金沢、近江八幡「北陸の建築・町並み・緑をみる」(2007.4.28 ~ 4.29)
- 長野「ハイブリッドから中山道へ」齋藤木材工業、奈良井 (2007.7.7)
- 台湾「高松作品を訪ねる旅」+ 象設計集団作品 (2007.11.17 ~ 19)
- 奈良「奈良県上笠神社住宅&阪口製材所」(2008.4.25)
- 京都「河井敏明氏の仕事をみる」四條木質ビル、妙心寺、関西木造文化研究会 (2009.4.18)
- 高知「高知建築視察ツアー」吉良川 (伝統的建造物群保存地区)、牧野富太郎記念館、坂本竜馬記念館、高知駅 (2009.8.8 ~ 11)
- 大阪 近畿産業信用組合難波支店、寺西家阿倍野長屋 (2011.3.29)
- 岐阜 森林文化アカデミー&平野木材&美濃市町並み (2011.9.3)
- ベトナムの竹建築など (2012.8)
- 長野「Hakuba House 竣工見学会+長野県木造現代建築ツアー」安曇野ちひろ美術館、神長官守矢資料館、高過庵 (2013.5.25 ~ 26)
- 大阪・京都 大阪木材仲買会館、横内敏人建築設計事務所、妙見山「星嶺」、美山町かやぶきの里 (2015.8.28 ~ 29)
- 丸美産業新社屋建て方見学会 (2008.2.23)
- 豊田元町ビレッジ (2008.3.15)
- 丸美産業新社屋完成見学会 (2008.7.26)
- 名古屋大学木造駐輪場&ES総合館 (2011.4.1)
- トヨタホーム春日井事業所 (2012.3.9)
- 黄柳川小学校 (新城市)、東栄小学校現場 (東栄町) (2013.3.4)
- 南大高保育園 (2014.3.29)
- 深田電機本社ビル「赤塚の森」(2014.4.29)
- 名大NIC館 (2015.6.18)
- トヨタ高辻ショールーム (2016.2.14)

| | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|---|
| <p>東海林修氏 「木」が私たちに 響りかけるもの。 part 7 2016.5.30</p> | <p>藤岡伸子氏 木と森をめぐる文化史 part 6 2017.3.21</p> | <p>清水秀丸氏 数々の建築現場から見た 木造建築の価値観 part 5 2016.12.9</p> | <p>鶴岡哲矢氏 もつくる新城の設計が part 4 2016.7.28</p> | <p>田中英彦氏 通空間都市設計事務所 代表 わたしは木造が好きです part 3 2016.5.7</p> | <p>武藤隆氏 木を使うということ part 2 2016.3.15</p> | <p>初回 木造シリーズ化 谷篤子氏から 木造都市研究会 木愛の会 主催 木造都市のルネッサンス 木の連歌 シリーズ part1~7 http://www.kianokai.net/</p> |
|--|---|---|---|---|---|---|

木愛の会9周年総会より、代表世話人が田中英彦氏から名古屋大学の太幡英亮氏に代わりました。木造都市のルネッサンス「木の連歌」と題し、木造にかかわる方々のテーマをつないでいく連歌方式の研究会が立ち上がり、part1「日本・オーストリアの中高層木質構造の耐火法規比較」谷篤子氏↓part2「木を使うということ」武藤隆氏↓part3「わたしは木造が好きです」田中英彦氏↓part4「もつくる新城の設計その他」鶴岡哲矢氏↓part5「実大破壊実験から見た木造建物の耐震性能」清水秀丸氏↓part6「木と森をめぐる文化史」藤岡伸子氏↓part7「木が私たちに語りかけるもの」東海林修氏とつながり、学生の参加も増え、たいへん有意義な研究会となっております。

また、名古屋大学大幡研・古川研及び「あいちの木で家をつくる会」主催の「愛知県産材を使う木製ストリートファニチャーコンテスト2015」及び「県産材を使うモバイルシェッド提案学生コンテスト2016」への協力をすることで、地域利用拡大と木造教育に貢献しています。

2016年9月には設立10周年を記念して「あいち木造ミーティング」を開催し、国産木材の有効活用を考える上で地域の山からエンドユーザーまでをつなぐ、淀みない流れを実現することを模索しました。

この間、木造を専門とする地元大学の若手研究者である、中部大の石山央樹氏や椋山女学園大の清水秀丸氏をメンバーに加え、活動の幅を拡げるとともに、中小規模から大規模にわたる木造建築の見学会も随時行ってきました。

